

さくらと、私と、黒い雫

鈴木麻名実

登場人物

ゆり

さくら

季節 3月。

時 深夜1時半をまわったところ。

所 さくらとゆりの共有スペース。二人はルームシェアをしている。

テーブルにソファ。クッションがいくつか。

カーペットの上には大きなマスコットのキーホルダーがついたさくらのスマホが放り投げられている。

ピンク色の部屋着を着たさくらが雑誌を読んでいる。
ちらりと壁にかけてある時計を見る。溜め息。

さくら 遅いなー、ゆり姉……。

手持ち無沙汰にスマホを手に取りいじる。
そこに、玄関の鍵を開ける音が聞こえる。

さくら 帰ってきた！

さくら、急いで部屋の電気を消す。玄関のドアが開く。

ゆりがソープランドの仕事から帰ってくる。黒いコートにブランドもののバッグを持っていく。服装の割に化粧はしておらず、黒いロングの髪も特にセットなどされていない。

ゆり (気だるそうに) ただいまー。って暗いし。さくら、寝てるのー？

ゆりが電気のスイッチを押す。

さくら

(後ろからゆりに抱き着いて) わっ！

ゆり

うわっ。ったく、びっくりさせないでよ。電気ついてないし寝てるのかと思
った。

さくら

ごめんごめん、おかえりー。あれ、ゆり姉すっぴん？ 化粧落としてきたん
だ？

ゆり

(自分の部屋に向かいながら) うん、送りの車出るのに時間かかりそうだっ
たから、向こうでお風呂入ってきた。

さくら

そっかー。(ゆりの部屋に向かつて) ゆり姉、一杯飲むー？

ゆり

(ゆり自室から) 飲むー。

さくら

おけ！

さくら、テーブルの上の雑誌を片付ける。

そしてキッチンに向かい、氷の入ったグラスを二つ持ってきて、それをテーブル
の上に置き、またキッチンに戻る。

するとすぐに、ウイスキーのボトルを持ってきて、それもテーブルに置き、また
キッチンに戻る。

さくら

(キッチンの方から) うわー、倒れたー。なんてこったー。

さくら、ケーキの乗ったお皿を二枚持って出てくる。

その内一つは、無様にケーキが倒れてしまっている。

お皿を見つめながら慎重に歩き、テーブルの上に置こうとする。

が、ふと思いとどまり、倒れていないケーキを恨めしそうにじーっと見つめ、そ
れをゆりが座る方に置き、自分のところには倒れてしまったケーキを置き、座る。

さくら

はっ！ フォーク忘れた！

再度キッチンに戻り、フォークを二本持って出てくる。
フォークをお皿の上に置く。

さくら お酒よーし！ ケーキよーし！ フォークよーし！ うん、完璧！

着替えを終えたゆりが、手に煙草を持って戻ってくる。

ゆり はー、疲れた……。

さくら お疲れ様！ ささ、お掛けになってください！

ゆり (テーブルの上のケーキに気付き) 何これ？ どうしたの？

さくら ゆり姉疲れたでしょ？ 甘い物食べたいでしょ？ てことで食べよう！

ゆり いや、別にそんな食べたい気分じゃないし。

さくら 冷たい……。

ゆり はいはい、冷たくてごめんねー。

ゆり、煙草に火をつけ吸う。それを見て、灰皿をゆりの近くに置き直すさくら。

さくら、ウイスキーを注ぎ、ゆりの前に置く。

さくら てか、今日遅かったねー。延長入ったりしたの？

ゆり ううん。常連さんが、遅くからの開始で。常連じゃなかったら帰ってたわ。

さくら そか。常連って、ヴィトンおじさん？ コスプレ兄ちゃん？

ゆり ITの営業さん。

さくら バーコードハゲの？ 最近常連になったって言ってた人か！

ゆり そうそう。お金の払いは良いんだけどねー。セックスもまあそこそこ上手だし、良い人だと思うし。だけど、臭いのよ！

さくら あー、臭いのはきついよね。

ゆり 口はタバコ臭いし酒臭いし、あそこも臭いし。もう洗う時グリンズだけじゃなくて、イソジンぶっかけてやろうかと思った。それに、ワキガの臭いも強烈で。あのワキガの臭いつてさ、本当ひどい人だと、こっちにも臭い移るじゃない。

さくら 移るねー。その人もそうなんだ？

ゆり そうなの。もう本当嫌っ。ていうか、あんた今日どうしたの？ 当欠するなんて珍しいじゃん。体調崩したのかなって思ってたら、全然元気そうだし。

さくら

それが昨日めっちゃ激しいお客さんに当たっちゃって！ それで中切られちゃったの。お陰で今朝もまだ血が出ててヒリヒリするから休んだんだー。

ゆり

あらら。

さくら

あー、なんで爪チエックし忘れたんだろ。イケメンだったからって油断した！……今日誰か店来たかなー。

ゆり

あー、あんたの客、今日来てみたい。

さくら

え、誰！？

ゆり

確かねえ……アサ、なんとかさん？

さくら

(笑顔で) 朝倉さん！

ゆり

あー、確かそんな名前だった。岡つちが「さくらさんに伝えておいてください」って。

さくら

マジかー。朝倉さん、昨日来てくれれば良かったのに……。

ゆり

なに、太客なの？

さくら

ちよー良いの、セックスが。

ゆり

(笑いながら) あっそう。

さくら

すごいよ、一二〇分コースでさくら、毎回二十回位イカされるもん。何なんだろ、あれ。時間経つのがあつという間でさ、もつとやってーって思うもん。もうさ、あのセックスだったら何十時間でもしてたいよ。時間を忘れさせてくれるセックスって本当最高。あーもう、セックスしたーい。

ゆり

はいはい。もう流石に出血おさまったんでしょう？ 明日出勤して思う存分にセックスしなさいな。

さくら

はーい。

ゆり

にしても感心するわ。あんたのそのセックス好きには。

さくら

へへー、ありがとう！

ゆり

褒めてないから。

さくら

でも、ゆり姉だってたまには良いセックスだったーって思うことあるでしょう？

ゆり

ありません。そもそも客相手にイかないから。

さくら

えー、一回もないの？

ゆり

一回もない。お金が発生するからやる。それだけ。店でもセックスするのに、セフレまで作るあんたの気が知れないわよ。

さくら

だって下手な人たちばっかとかやってたらイきたいのにイけないーみたいなの？ こうムズムズするじゃない？ 物足りなくなるの！ うまい人とやりたくなるんだもーん。やっぱセックスは、一緒に気持ちよくなれるのが一番！ あっそう。

ゆり

さくら

なのに色々勘違いしてる殿方が多くて困るよね。さくらはそういう殿方に会うと悲しくなる。A Vのやり方じゃ駄目。皆研究しあおうよ、お互いのことを！ さくらはそう思う！

ゆり

まあ勘違いな男共が多いってのには同感だけど。

さくら

てかさ、じゃああの声は何なの！？ ゆり姉の喘ぎ声やばいよ！ 昨日も聞こえたけど。さくらのお客さん、ゆり姉の声に興奮しちゃって！ まあさくらはあの声には興奮するけど。

ゆり

何言ってるの。

さくら

え、どの位演技してるの？ あれ、演技の声だったらすごいわ。さすがゆり姉だわ。

ゆり

本指に繋げたい客にはサービスしなくちゃね。

さくら

繋げたい客？

ゆり

清潔で、そこそ良い人で、そこそこうまくて、定期的に来てくれそうなお金持ってそうなお客さん。

さくら

なるほど、選んでるんだ。だから、ゆり姉のお客さん、太客多いんだ！

ゆり

客は論吉でしかないから。

さくら

論吉！

ゆり

そう、ただの論吉。論吉様さまですよ。

ゆり、グラスを持って口をつけようとする。

さくら

わー！ 何勝手に一人で飲もうとしてるの！ 乾杯しようよ！ 乾杯！

ゆり

何よもう、だいたい何に乾杯するの？

さくら

お祝いだよ！ お祝い！

ゆり

お祝い？

さくら

うん！ 今日は何の日でしょう？

ゆり

わかんない。

さくら

ちよつとは考えようよ！

ゆり

もう面倒臭いなあ。何の日なの？

さくら

へへへー、今日で二年目なの！ ゆり姉と一緒に暮らし始めて！

ゆり

あー、そうだったっけ。あんた、よくそんなこと覚えてんのね。

さくら

覚えてるよー、そりゃあ。記念日は忘れないもの。

ゆり

記念日？ 彼氏に追い出されてビービー泣いてた日が？

さくら

うっ……。

ゆり 出勤したらワンワン喚いてる声が聞こえてさ、何事かと思って事務所入ったら、「ゆり姉助けてー」って。

さくら いやー、もう本当あの時はありがとうございました！ 助かりました！ 本当にね。しかも、まさかそのまま居続けるとはねー。

ゆり ごめーん。でもゆり姉、さくらが来て楽しくなったでしょう？ それに、こんな広いのに一人で住んでたなんてさ。空いてた部屋が可哀そうだったよ。

さくらが住むようになって、喜んでたもん。住んでくれてありがとうって！ 何それ。

ゆり だから喜んでたんだよ、お部屋が！

さくら バツカみたい。

ゆり バカだもーん！

ゆり はいはい。さみしい部屋に住んでくれたおバカなさくらさん、私にそろそろお酒を頂けますか？

さくら 仕方ないな、あげようではないか。

ゆり それはそれは、ありがたき幸せ。

さくら というわけで、かんぱーい！

ゆり 乾杯。

さくらとゆり、グラスを重ねる。それぞれ飲む。